

Newsletter 32

慶應義塾大学教養研究センターニュースレター第32号 / 2018年5月16日発行

Contents

- 巻頭言 理工坂
- 特集I 基盤研究「教養研究」、「学びの連携」プロジェクト
- 特集II 研究サポート「研究の現場から」、読書会推進企画「晴読雨読」
- 特集III 【教養研究センター設置科目】身体知・音楽／生命の教養学／身体知・映像／身体知／アカデミック・スキルズ／学習相談
- 特集IV 「情報の教養学」「日吉キャンパス公開講座」
- 特集V 「日吉行事企画委員会（HAPP）」「カドベヤ」「教養研究センター選書」
- 活動予定 4月～9月、「学会・ワークショップ等開催支援」
- 私の〇〇自慢



理工坂

荒金直人（理工学部）
Naoto Arakane

私は、理工学部所属で日吉キャンパス来往舎に研究室を持つ文系教員なので、理工学部の三・四年生または理工学研究科の大学院生のための授業や、あるいは教授会その他の会議があるたびに、日吉キャンパスと矢上キャンパスの間を往復しています。多い時には一日に三往復するようなこともあります。徒歩で片道五分程度の距離ですが、二つのキャンパスは二つの丘の上にあるので、両キャンパス間を移動するには一度坂を下って谷に降りてから、再び坂を上らなければならず、対岸 と言って差し支えないと思いますが に到着する頃には必ず息切れしており、ちょっとした運動になっています。

二つのキャンパスを繋ぐ経路は二つありますが、私がいつも通るのは、より人通りの少ない裏道です。来往舎の裏側から出て、化学・物理学・生物学の研究室のある第二校舎の前を通り、体育館+スポーツ棟と日吉記念館（只今工事中）の間を抜け、音楽・美術・心理学の研究室のある第八校舎の横を通ります。多くの異なる分野の研究室や教室を一瞬で通り抜ける感覚です。そして、「理工坂」と呼ばれる191段（実測）の階段を下ります。日吉の森の片隅を縁取る位置にあるので、ほんの一瞬ですが自然に囲まれるような気持ちになります。この坂を降りて矢上キャンパスへ向かうとき、そしてこ

の坂を登って日吉キャンパスに戻るとき、いつも心に浮かんで消える、哲学者ブリュノ・ラトゥールの一節があります。

しかし、二つの文化についての論争それ自体は、一体何に起因するのだろうか。キャンパスの両側の間での分業に起因する。一方の陣営は、科学が正確であるのは、主観性や政治や情熱による一切の汚染から浄化されたときのみであると考え、それより遥かに大きな広がりを持つもう一方の陣営は、人間性や道徳や主観性や権利には、科学や技術や客観性との一切の接触から保護されたときのみ価値があると考え。科学論に身を置く我々は、これら二つの浄化、両方からの純化と同時に戦っており、そのことによって我々はどちらの陣営にとっても裏切り者になる。（Bruno Latour, *Pandora's Hope*, Harvard University Press, 1999, p.18）

私は、日吉キャンパスから矢上キャンパスが見える場所と、逆に矢上キャンパスから日吉キャンパスが見える場所の両方が好きで、飽きもせず何度も一方から他方を見て、しかしその二種類の景色が 丘の立体感のせいなのか いつまで経っても自分の中で俯瞰的な統一像を形成しない感覚を楽しんでいます。そして、日吉と矢上の地理的な位置関係が「文」と「理」の関係の隠喩になっているように思え、一歩一歩下っては上しかない「理工坂」に、ますます愛着を感じるので。



**【学会・ワークショップ等開催支援】
Dr. Richard John Curran 講演会
“Conversion and Attire in Early Christian Rome”**

4月2日(月) 17:00 ~、4月4日(水) 17:30 ~、
来往舎 中会議室

【HAPP】「歌舞伎のみかた、楽しみかた 犬丸治氏講演会」

4月7日(土) 14:00 ~ 15:30、来往舎 シンポジウムスペース

**【HAPP】「壺井明 連作祭壇画『無主物』の
展示と講演会」**

4月23日(月) ~ 27日(金)
来往舎 ギャラリー、イベントテラス、シンポジウムスペース

【情報の教養学】第2回: 田代光輝

「炎上とサイバースペース (集団極性化や社会の分断)」

5月16日(水) 18:15 ~ 19:45、来往舎 シンポジウムスペース

**【HAPP】「ライブラリーコンサート in 日吉
—図書館がコンサートホールになる2日間—」**

5月15日(火) 2回、5月22日(火) 2回、
日吉メディアセンター 1階ラウンジ、地下1階AVホール

**【HAPP】「〈物語の世界〉no.5 神になりたかった男
—ドストエフスキー『悪霊』の世界 亀山都夫講演会」**

5月23日(水) 18:15 ~ 20:00、独立館 D201

芸術学関連学会連合公開シンポジウム「藝術と教養」

6月2日(土) 13:00 ~ 17:00、来往舎 シンポジウムスペース

【HAPP】「雪雄子舞踏公演」

6月8日(金) 18:30 ~ 20:00、来往舎 イベントテラス

**【HAPP】「〈ことばの世界〉no.4 ドイツ語から見たドイツ人
大谷弘道講演会」**

6月19日(火) 18:15 ~ 20:00、来往舎 シンポジウムスペース

【HAPP】「日吉音楽祭 2018」

7月15日(日)、10月6日(土) 協生館 藤原洋記念ホール

【学会・ワークショップ等開催支援】

「グローバル・オーディエンスに響くストーリーテリング」

7月予定、場所未定

2018年度「庄内セミナー」

8月29日(水) ~ 9月1日(土)
山形県鶴岡市(鶴岡タウンキャンパス他)

4月

5月

6月

7月

8月

9月

学会・ワークショップ等開催支援

当センター所員が企画する研究会やワークショップ等を経費・広報の両面から応援する制度です。所員の方々が参加できる研究・交流の場を広げることを趣旨として、開催に伴う経費の助成や、日吉キャンパス内やウェブでの広報をお手伝いします。

募集は毎年2回、春学期開催分は1月末日まで、秋学期開催分は7月末日まで受け付けています。次回の締切は7月31日(火)です。ふるってご応募ください。なお、経費を必要としない広報支援については随時受け付けています。

【情報の教養学】第1回: 福井健策

「ネットのダークマター

—止まらない海賊版でマンガ・アニメは滅びるのか?」

5月9日(水) 18:15 ~ 19:45、来往舎 シンポジウムスペース

【情報の教養学】第3回: 堀潤

「fake news (仮)」

5月21日(月) 16:30 ~ 18:00、第4校舎B棟39番教室

【HAPP】「塾長と日吉の森を歩こう」

5月26日(土) 13:00 ~、まむし谷

【研究の現場から】第22回: 杉山有紀子

「ヨーロッパ・ユダヤ・オーストリアのはざままで

—S. ツヴァイクと20世紀オーストリア文学」

5月30日(水) 18:15 ~、来往舎 101

【学会・ワークショップ等開催支援】

「アール・ジャクソン教授講演会」

6月30日(土) 15:00 ~ 19:00、来往舎 シンポジウムスペース

【学会・ワークショップ等開催支援】「北朝鮮シンポジウム」

6月もしくは7月開催予定、来往舎

【学会・ワークショップ等開催支援】

「目指せ、オリンピック・パラリンピックボランティア!」

7月4日(水) 18:15 ~ 20:00、来往舎 シンポジウムスペース

【教養研究センター選書 原稿募集】

申込締切日: 7月27日(金) 原稿提出締切日: 9月28日(金)

求ム・来往最前線情報!

所員の方々の研究・教育をご紹介します。勉強会、研究会、講演会、ワークショップのお知らせ(日時・内容・研究会名・担当教員・連絡先) 著作刊行物がありましたら、情報をお寄せ下さい。教養研究センターへ: toiawase-lib@adst.keio.ac.jp (各イベントのお問い合わせはこちらへ)

私の自慢するものがない自慢

2017年11月1日付人事異動で教養研究センター事務長を拝命した大古殿(おおふるとん)と申します。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願ひ申し上げます。さて、題にも書きましたが、正直申し上げて人に話せるほど自慢できるものはありません。楽器とかスポーツとか、何か秀でた特技でもあればかっこよかったのですが、本当に何もないのです。これはふたご座A型の典型か、もともと若いときから自分のことを積極的に表に出すような性格でもなく、その他大勢に紛れて生きてきましたので、いつの間にかこうなりました。自慢ではあませんが、強いて自分が好きなことをあげるならば、鼻肩のミュージシャンのコンサートに行くこと、野球をしたり観たりすること、お気に入りの店で食事することくらいで、どれもたいして話が膨らむほどのものではない、こらして書くこと自体憚ります。この年齢になると、もうこれ以上背伸びをしようとは思いませんが、せつかく日吉キャンパスに来たのだし、構内のスポーツクラブでも通ってみようかとちょっと思っている自分がまた憚ります。(大古殿憲治)